

# 令和元年度 第2回千葉県スポーツ推進審議会 書面開催会議録

令和2年3月 開催

<委員> (敬称略50音順)

大野 敬三 黒川 仁美 高坂 俊介 添田 智恵 高橋 直子 寺山 由美  
浪越 一喜 畑佐 耕一郎 本間 奈々絵 涌井 佐和子

<オブザーバー> 天本 憲亮 北林 秀峰

<事務局職員>

千葉県教育庁		教育次長	吉野 美砂子
健康福祉部	健康づくり支援課	健康づくり支援班	副主査 田邊 雅子
	高齢者福祉課	生きがい活動推進班	主査 関 めぐみ
	障害者福祉推進課	障害保健福祉推進班	主事 牲川 智彦
農林水産部	安全農業推進課	食育推進班	班長 星野 勲
環境生活部	オリンピック・パラリンピック推進局		
	開催準備課	戦略推進班	主事 倉持 進伍
	オリンピック・パラリンピック推進局		
	事前キャンプ・大会競技支援課機運醸成・大会競技支援班	班長	松井 龍行
企画管理部	教育政策課	教育立県推進室企画班	主査 進藤 周介
教育振興部	生涯学習課	学校・家庭・地域連携室	主査 朝倉 真一
	学校安全保健課	給食班	指導主事 浅賀 隆之
	学習指導課	教育課程室	指導主事 朝日 大介
	特別支援教育課	教育課程指導室	指導主事 渡邊 秀樹
	体育課	課長	加藤 俊文
	施設・調整班	班長	門田 徳征
	学校体育班	班長	岩波 永
	スポーツ推進室	主幹兼室長	都丸 輝信
	スポーツ推進室競技スポーツ班	班長	津田 亘彦
	スポーツ推進室オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援班		
		班長	柳橋 宏昭
	スポーツ推進室生涯スポーツ班	班長	中根 伸一
	同	指導主事	田代 純一
	同	指導主事	林 俊則
	同	指導主事	青柳 裕子
	同	指導主事	石塚 由之
	同	指導主事	渡邊 国剛
	ちばアクアラインマラソン準備室	主幹	大岡 正和

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面での開催に変更

## 書面開催内容

### 【報告事項】

- ア 国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会について
- イ 東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業について
- ウ ちばアクアラインマラソンについて
- エ 令和元年度第1回千葉県スポーツ推進審議会での委員から出た御意見について

### 【審議事項】

- a 令和2年度スポーツ団体に対する補助金について
  - b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和元年度の主な施策の工程表点検・評価
  - c 令和元年度 県民の運動・スポーツに関するアンケート調査の結果について
  - d 委員に意見を求めたい事項
- リンクB『運動・スポーツを楽しむための健康体づくり』について

## 委員からの御質問・御意見

### 審議事項 a 令和2年度スポーツ団体に対する補助金について

#### <御意見>

- 千葉県のスポーツ団体等への補助は他県等に比べて少額である。バブル経済が崩壊して以降、マイナスシリーディングが10年以上続き、今では当初の補助金の3～4割程度の額となっている。スポーツ振興、スポーツ団体の活動運営を支えるため補助金を増額することが必要と考える。
- 予算案に異議はないが、今回の新型コロナウイルス対策を踏まえ、必要な場合は補正予算投入の検討をお願いしたい。
- 事業計画には資金が必要です。無駄のない資金計画をお願いします。
- 特に異論はありません。新たな地域スポーツ推進のため、新規活性化事業の創設を含め、千葉県スポーツ推進委員連合会補助金の増額を含め、検討いただければと思います。（令和3年度への要望）

### 審議事項 b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和元年度の主な施策の工程表点検・評価

#### リンクA 子どもの体力向上と学校体育活動の充実

#### 施策1 幼児期における運動習慣の基盤づくり

#### <御意見>

- （リンクA施策1～5について）計画事業はしっかり実施したのに、基本指標はマイナスとなっている。今後、1. 事業についての評価をそれぞれ行うこと 2. 事業と指標との関連を再確認すること等が大切である。
- リンクF・施策1に関連コメントをしました。
- 幼児期の体力づくりの一層の充実をお願いします。
- 継続的に講演会等を開催し、令和2年度は令和元年度未参加者に限定するなどの理解の拡大を期待。

## リンクA 子どもの体力向上と学校体育活動の充実

### 施策2 学校体育活動の充実

#### <御質問>

○JOCスポーツ教室を県内6校で実施して、県では成果をどのようにとらえているかご教示頂きたいと思えます。

#### (回答)

オリンピックが教師役となり、「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を運動と座学の授業をとおして伝えることができました。オリンピックの実体験からくるオリンピックバリューは日頃の学校・日常生活にもおいても大切だという感想も実施校から報告を受けています。県内でも開催される「オリンピック・パラリンピック」への期待が高まるとともに、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しさや感動を分かち合う心の育成にもつながっています。

#### <御意見>

○リンクF・施策1に関連コメントをしました。

○授業づくりの改善が子ども達の運動生活の変化につながるよう、学校体育全体の問題として検討する必要はないか？小学校を例にするならば、始業前、業間、昼休み等、授業での楽しい経験が自由な遊びの時間に展開されれば。

## リンクA 子どもの体力向上と学校体育活動の充実

### 施策3 児童生徒の体力の向上

#### <御質問>

○新聞で拝見いたしますと、全国体力テストの結果が年々低下しているように思われますが、要因をどのようにとらえているかご教示頂きたいと思えます。(全国順位はマスコミが付けていることは承知しております)

#### (回答)

近年では子どもたちを取り巻く生活環境が変わってきたということが要因の一つにあげられます。スマートフォンやゲーム機等で映像を視聴する時間が長くなっている傾向があります。このことが運動する時間や睡眠時間、学習時間の減少につながっているという指摘もあります。また、授業の中で積極的に体を動かすことが少なくなっているということも関係していると考えます。これらの状況を踏まえ、今後も「体力向上を主体的に目指す子どもの育成」を目指して、授業改善や指導者の資質向上に努めていきます。

#### <御意見>

○リンクF・施策1に関連コメントをしました。

○授業づくりの改善が子ども達の運動生活の変化につながるよう、学校体育全体の問題として検討する必要はないか？小学校を例にするならば、始業前、業間、昼休み等、授業での楽しい経験が自由な遊びの時間に展開されれば。それが体力向上の一助になるのではないか。

リンクA 子どもの体力向上と学校体育活動の充実

施策4 運動部活動の充実

<御質問>

○表現の問題ですが、課題と問題という語がすみ分けがされていないように思われます。運動部満足度の下降傾向は問題点であって、課題は「満足度を上昇させること」だと思います。課題と問題は同じニュアンスで使われるものなのではないでしょうか。

(回答)

御指摘の通り、「課題」と「問題」意味合いが異なります。表現につきましては検討させていただき、次回審議会までには他の施策等の記載も含めて統一していきたいと考えています。

<御意見>

○リンクF・施策1に関連コメントをしました。

○ガイドラインの浸透、意識改革を本気で求めるのであれば各市町村学校の現状を公開することも。部活動の効果的運営については、種目を問わず指導者（顧問）間の意見交換の場をつくることも。

リンクA 子どもの体力向上と学校体育活動の充実

施策5 心身の健全な発達に向けた食育の推進

<御質問>

○リンクF・施策1に関連コメントをしました。

**審議事項 b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和元年度の主な施策の工程表点検・評価**

リンクB 運動・スポーツを楽しむための健康・体力づくり

施策1 ライフステージに応じた運動・スポーツの推進

<御意見>

○（リンクB施策1～2について）

基本指標の向上に何が大きく影響しているか把握する必要がある。

○リンクF・施策1に関連コメントをしました。

リンクB 運動・スポーツを楽しむための健康・体力づくり

施策2 障害のある人の運動・スポーツの推進

<御意見>

○リンクF・施策1に関連コメントをしました。

**審議事項 b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和元年度の主な施策の工程表点検・評価**

リンクC スポーツ環境の整備

施策1 人づくりの推進

○御意見・御質問なし

リンクC スポーツ環境の整備

施策2 施設の再整備と有効活用

<御意見>

○千葉県施設の整備は、全国的にも下位にある。県立施設を急ぎ整備していく必要がある。

リンクC スポーツ環境の整備

施策3 システムづくりの推進

<御意見>

○総合型スポーツクラブの登録認証制度整備に向けて全国的な動きがある。千葉県でも急ぎ対策していくよう尽力願いたい。

**審議事項 b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和元年度の主な施策の工程表点検・評価**

リンクD 競技力の向上

施策1 選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上

施策2 競技力向上のための環境整備

施策3 スポーツ医・科学の積極的な活用

施策4 組織・調査等の充実

施策5 競技会開催等の充実

施策6 競技スポーツの好循環

<御意見>

○（リンクD施策1～6について）関東ブロック大会（国民体育大会）での戦いが年々厳しくなってくると考える。本国体入賞を続けていくためにも新たな方策を工夫していくことが重要と考える。

**審議事項 b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和元年度の主な施策の工程表点検・評価**

リンクE 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進

施策1 オリンピック・パラリンピックアスリート支援

○御意見・御質問なし

リンクE 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進

施策2 スポーツを通じたネットワークの充実・拡大

<御質問>

○一つの県として、オリンピック教室の実施校6校は多い方ですが、2021年以降も継続して実施頂くためにも、オリンピック教室を実施しての評価、改善点をぜひともご教示頂きたいと思います。

**(回答)**

オリンピックと接することができるこの事業は子どもたちにとって有意義と考えています。実施校からも貴重な機会ととらえる好意的な感想が挙げられており、「オリンピック・パラリンピック」への期待や心の育成にもつながっておりますので、県としても今後継続していきたいと考えています。実施時期や実施校の設備面、予算との関連がありますが、実施校数などは今後も検討していきます。

＜御意見＞

○今回の新型コロナウイルスの影響を鑑みつつも、貴重な機会なので柔軟な対応を期待したい。

リンクE 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進

施策3 誰もが参加できるみんなのスポーツの推進

○御意見・御質問なし

**審議事項 b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和元年度の主な施策の工程表点検・評価**

リンクF スポーツによる地域の活力づくりの推進

施策1 トップ・プロスポーツと連携した地域づくりの推進

＜御意見＞

○経年で実施している「かなえ隊」、「パスポート・プロジェクト」を中心に、プロスポーツをとおして、県内の体育・スポーツとの関わりに寄与していることが審議事項Cのアンケート結果からも読み取れる。また、プロスポーツへのニーズとして観戦環境の整備（＝パスポート・プロジェクト）、選手訪問や交流会（＝かなえ隊）が多くを占めていることから、これら事業をさらに推進・広げていくことがプロスポーツチームが貢献できることと考える。

※以下提案は、リンクA・Bにも大きく関連※

今回の新型コロナウイルスをきっかけに、大きく社会環境に変化が起き、これまでにないほどに家にこもりがちな環境が増えることが予想される。上記2事業を健康・安全面に留意し、県教育庁や各市町村教育委員会と連携して適切に行うことに加え、新たな取り組みとしてYouTubeでの動画配信など、自宅にいても体を動かすことに親しめるコンテンツの提供が必要と感じる。既に球団・クラブによっては取り組んでいることではあるが、新型コロナウイルスの影響は長期化することも考えられることから、ぜひ、今からでも県教育庁と連携し、各球団・クラブがコンテンツを作り、県教育庁で全県の子供を持つ家庭に案内チラシを送るなど、検討できないだろうか？

○障害者スポーツと連携していけると、パラスポーツの普及・強化につながるのではないかと。

- ・ ロッテ⇔障害者野球、車いすソフトボール
- ・ ジェッツ⇔車いすバスケット、知的バスケット、聾のバスケット
- ・ ジェフ⇔アンプティイ、CP、知的電動車いす

リンクF スポーツによる地域の活力づくりの推進

施策2 スポーツイベントを活用した千葉の魅力発信

○御意見・御質問なし

リンクF スポーツによる地域の活力づくりの推進

施策3 身近なスポーツ資源と連携した知育づくりの推進

○御意見・御質問なし

**審議事項 c 令和元年度 県民の運動・スポーツに関するアンケート調査の結果について**

<御意見>

○審議事項b・リンクFに関連コメントを記載。

○基本指標、休日の1時間以上の運動遊びの実施率▲6.9ポイント について

減少の要因

- ・ 休日は家族で出掛ける、共働きで休日に親が出勤、生活スタイルの変化
- ・ IT機器の使用により運動遊びが減少
- ・ 場所、器具が近くにない、治安や天候などの環境の問題などがある

対策として啓発活動をもっとしてほしい

○この結果から、どのような施策を今後検討するのか。

**審議事項 d リンクB 『運動・スポーツを楽しむための健康体力づくり』について**

<御質問>

○運動とスポーツのすみ分けがなされていないように感じました。資料P.3の「ビジネスパーソン向けの取組」の中「日常生活において気軽に取り組めることもスポーツである意識を普及させる」とありますが、この「気軽に取り組めること」とは、隙間時間に出来るウォーキングや階段昇降の事でしょうか。スポーツ庁がとらえているのと同様に、「運動」の実施率向上という観点では趣旨に賛同します。

(回答)

「気軽に取り組めること」とは、隙間時間に出来るウォーキングや階段昇降も含めております。そもそも「運動」と「スポーツ」は意味合いが異なるととらえています。しかし、スポーツ庁実施の「スポーツ実施状況等に関する世論調査」では、実施した種目のウォーキングに、散歩や一駅歩きを含み、階段昇降などもスポーツとしてとらえています。一定のルールに基づいて複数人で行うものが「スポーツ」とされていますが、「スポーツ」のとらえ方を国が示す内容に変更しました。特に子育て・働き盛り世代において、身近で気軽にできることから始め、そこから継続、質を向上させていくための取組を第13次計画に向けて検討していきます。

<御意見>

○日常生活の中に運動が取り入れられ、それが日々の楽しみであると感じられる、そんなイベントやキャンペーンなどを工夫することも1つの方法。

○審議事項b・リンクFに関連コメントを記載。

○今回の新型コロナウイルスの影響を受けた社会的変化（家にこもりがちになる、人との接触を避ける）に適応した施策検討が必要。特に乳幼児～小学生くらいまでの子供を持つ世帯はTV並みにYoutubeなど動画配信コンテンツに親しんでいるが、それらを活用したコンテンツ提要进行を検討してみてもどうか。

※千葉ロッテマリーンズが行った来場者家族向けグループインタビューでは、親が子供たちに見せたり、子供たち自身が見るコンテンツがTV番組からYoutubeなど動画配信コンテンツへのシフトが進み、その結果として子供たちが憧れる職業にYoutuberがラインナップするなど、この数年の社会変化を読み取れるものがあった。

※動画を気軽に見られるスマートフォン普及率の高さ（数年前にPCを逆転）、そのスマートフォンと気軽にミラーリングが出来るスマートTVの普及（TV画面でインターネットコンテンツを簡単に閲覧できる環境）が大きな影響を与えていると考えられる。

※TV放送と異なり、動画配信であれば、オウンドメディアとして格安でコンテンツを用意し、無料で配信を行えるため、低コストで実施できる（審議事項b・リンクFで言及したように県内プロスポーツチームがコンテンツ制作に関われば、より容易に実施できる）

○スポーツの実施率の向上について

- ・一人ではなかなかできないので、学校の部活動などで子供と一緒に参加できるような仕組みができるとやりやすいのではないかと。
- ・既存の種目ではなく多種多様な内容の紹介や実施ができると個人にあったものの選択肢が広がる。
- ・個人だけでなく事業所での取り組みができると参加しやすい。事業所内でクラブを作ったら補助が受けられるとか。
- ・スポーツクラブやサークルではなく、いつでもどこでも気軽に参加できるような仕組みがあるとよい。ネットワークも作りやすい。
- ・定期的なスポーツ診断を実施し成果が見られるような仕組みと、成果をポイント制にして恩恵（施設利用券や割引）を受けられる制度があると目標にしやすい。
- ・女性の参加という点では、託児所の設置が必要である。

○障害者のスポーツ実施率の向上について

- ・健常者と障害者の交流共同という意味で、大会や日頃のスポーツ実践の共同開催でお互いを理解し仲間を増やすことができる。
- ・障害者専用の施設や用具がないため、学校を拠点とした活動場所の確保が必要である。
- ・チームとして大会等に参加できるように、チーム作りができるとよい。

○“朝ご飯を毎日食べる”の質問に対して成人（保護者）より幼稚園児の保護者の方が少ない。働くママも増え忙しい毎日なのでしょう。しかし1日のはじまりの大切な1食なので親子で食卓を囲む事が

日々の心も体も元気に生活していく一助となることを伝える機会があるとよいと思いました。

○スポーツをするきっかけを増やす。

- ・スポーツ教室やイベントのポスターをよく見る。出先でやっているところを目にする機会が増えると参加してみようと動く人は増えそう。親子参加型（親子一緒にする／一緒に参加するが子どもと親のプログラムを変えたりするなど）年齢別、レベル別、年間でレベルアップしていく、様々なニーズに対応できるようにするなど、仕事・育児・家事で多忙な人でも参加できる時間帯の施設開放・教室などがあるといいと思います。その他教室やイベントの目的が明確（どんなものかやってみたいが目的でよい）である方が選びやすい。

- ・上記の教室（イベント）でも障害をもっていても参加OKにする。障害の程度により困難な内容もあると思うが、できる限り対応していけると良い。それと別に、障害を持った人同士の参加型も必要。

○利用可能施設の拡大（学校開放、公共施設の有効活用）とともに、その情報（そこに行くとながができるか？どのようにできるのか？）のさらなる提供。

○障害者スポーツへのニーズの把握と場（施設）で何ができるのか？教室やプログラムの提供及び健全者と共に楽しむ種目イベント等の実施。

○今できること、先ず場所の確保からニーズに合わせたプログラム（教室等）の企画。

○現状（新型コロナウイルス等）からすると「親子で楽しむ○○○○」にはニーズがあるものと思われる。